

# 埼玉親善大使レポート

留学先：マレーシア科学大学

男性 K.S.



## はじめに

私は「埼玉発世界行き」の奨学生としてマレーシアのマレーシア科学大学に留学いたしました。このレポートでは奨学生としての責務であった、埼玉県のPRの成果を伝えたいと思います。加えて、私の留学の経験を共有させていただき、埼玉県に在住の皆様が少しでも留学などに挑戦したいという気持ちになって頂ければと思っております。

## 留学先を選んだ理由

この留学先を選んだ理由は、経済的に留学という経験を積みたかったからです。マレーシア科学大学のあるマレーシアは日本から距離が近く、物価も安いいため、航空券や生活費などを抑えることができます。また公用語として英語も使われており、私の英語を習得したいという願いにも適合していました。（ただし、英語ネイティブではないため発音が多少良くなかったり、使う表現が基本的なものだったりします。）留学はお金が掛かるものというイメージがありますが、マレーシア及びこの大学であれば経済的に恵まれない人でも行くことができますと思います。

（夜の街を女性一人が歩いているところを見かけることも多々あり、治安の観点でもとてもお勧めです。）

## マレーシア科学大学について

マレーシア科学大学↓



### 1.場所について

東南アジアにあるマレーシアの中でもタイの国境に近い場所に位置するペナン島に大学があります。ペナン島には世界遺産の“ジョージタウン”の他、バトゥ・フェリングというビーチなどがあり、観光地としてもとても有名な島です。

ジョージタウン↓



バトゥ・フェリング↓



## 2. 学校の様子について

様々なことが校内でできる印象です。大きなサッカーグラウンド、フットサルコート、バドミントンコート、卓球コート、数個のカフェテリアなどがあり、スポーツをするにも友達と食事を楽しむにも適した環境であったと思います。私はフットサルやバドミントンを通じて他国の学生と交流を深めることができました。

## 3. 学生の雰囲気について

のんびりとした雰囲気です。ペナン島という比較的自然が豊かな場所に位置していたため、せかせかした雰囲気ではなく、ゆったりとした学生さんが多い印象を受けました。また、他国からの留学生も多く、多様な文化や考え方に触れることのできる機会が多くありました。

## 留学で得られたこと

### 1. 多少のことでは動じないタフさ

頼れる人のいない環境下で過ごしたことで、多少のことでは動じないタフさを身につけることができました。留学当初は、両親や既知の友人が居ないだけでなく、異なる住居や食事環境にも慣れずとても不安な思いを経験しました。特に、マレーシア到着の翌日から始まったオリエンテーション期間の一週間は、英語も全く喋れず、知人も全くおらずと、とても

精神的に辛い環境でした。ただ、そんな中でも、オリエンテーションを通して出てくる疑問（どの授業が良いかやマレーシアの治安の情報などについて）を解決する目的や、友人を作る目的のために、勇気を出して拙い英語で色々な人に声をかけました。やはり、英語が拙く相手の話が理解できないことも、私の話を上手く伝えることができないことも多くありましたが、臆さず話しかけ続けたことでタフさを身に着けられたと感じています。帰国後、社会人となり新たな環境を辛く思うことはありましたが、辛くても頼れる人が居らず、相談するにも言語の違う環境と比べれば、簡単な環境であると考え乗り越えることができている。

## 2.客観的な視点でモノを見る力

日本を離れ日本を客観的な視点で見られる外国で過ごしたことで、客観的な視点でモノを見る力を身に着けました。私は、留学前、海外旅行で10カ国以上の国を渡航し海外経験はある程度持っていました。しかし、短期的な滞在であったために一人の人と深い話をした経験がなく、海外の人が日本をどのように捉えているのかを感じる機会は微々たるものでした。そんな中、マレーシアでの長期的な滞在を通して、外国人の友達を作りお互いの文化について談笑することで、海外で日本がどのように思われているのかについて勉強することができました。こうした環境の中で感じた日本人の評価は「礼儀正しいが、主張が少ない」ということでした。これは、とりわけ欧米人と会話をしていると感じました。例えば、欧米人と旅行に行く際、旅のプランを一緒に決めると欧米人はどこへ行きたいか自身の考えをはっきり述べ、日本人は相手の意見に合わせるということが何度もありました。そうした際、決まって私は自分の意見をもっと出すことを求められました。これは日本人の「主張をし過ぎず人に合わせること」が美德であるという文化から来ているように思います。私自身、こうした日本人の美德に誇りを持っていただけにとってもショックでした。ただ、同時にこうした文化は日本を離れると必ずしも良いものではないことを学びました。これは日本と外国という2項対立だけでなく、多くの他の事象にも適応できると思います。私はこうした経験をしたからこそ、自分の主観的な視点が必ずしも正しいわけではないため、自分で何が正しいのかを客観的な視点で判断していこうと思えるようになりました。

## 埼玉親善大使としてPRしたこと

埼玉県民として自然だけでなく歴史もある素晴らしい埼玉県を留学先における多国籍な学生に対してPRしました。留学先では良く「日本のどこに住んでいるんですか？」と聞かれることが多く、私が「埼玉です。」と答えると、どこかわからない人が多かったです。その際、私は埼玉をPRするチャンスだと思い埼玉の自然や歴史をPRしました。自然という観点では、私がかつて行ったムーミンバレーパークの、湖と公園の美しいコントラストの写真を見せ、歴史という観点では川越に訪れた際の写真を見せ埼玉の良さをアピールしました。どちらの写真も相手からのウケは非常に良く、笑顔で埼玉県の良いことについて理解してく

れました。留学先の友人は日本に旅行に行くことが夢だとおっしゃっている人も多く、日本に来てくれた際は必ずムーミンバレーパークや川越などの埼玉県が誇る名所に連れていきたいと思っています。

### **最後に**

以上が埼玉県の PR 活動及び、留学の経験の共有になります。留学に行きたいと考えている方々の後押しになっていければ幸いです。経済的な理由で留学を躊躇している人はマレーシアの大学に留学するという選択肢もあることを念頭にコストやメリットを再考してみるといいと思います。また、その他の理由で留学を躊躇している人も、留学をすることでしかできない経験を積めるので必ず挑戦してみて欲しいです。